



長野県No.1 のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆生育状況と当面する重点作業について

圃場・樹により玉肥大にバラツキが大きい。また、核割れ果の発生が多い。大きく幅広なものや、変形果は注意する。

晩生品種は、今後の天候次第で熟度が前後する。高温干ばつが継続すると、成熟が遅れるので、注意する。果肉硬度や地色で判断し適期管理・収穫を行う。

腐敗果の発生が散見されるので収穫前防除を実施する。果実が軟らかい傾向なので注意する。

1. 本格的な収穫時期となった。各品種の適期収穫に努める。

着色先行の品種は、特に注意したい。着色より熟度優先で収穫し、ロス果を減らす！

2. 高温が続いた場合の急激な乾燥に注意する。

乾燥し過ぎている場合は、収穫間際でも、軽い散水を行う。

長期の曇天降雨で根が弱っている所に、高温に当たると樹が衰弱しやすい（特に排水の悪い園）5～7日程度たって降雨がなく弱っている樹には、かん水を行い樹体の保護を行う。

特に朝になっても葉が萎れていれば要注意。

盆後以降収穫する品種は、干天が続いたら20～30mm程度のかん水を行なう。

3. 配布されている「葉面散布肥料・特殊資材の使い方」を参考に葉面散布肥料を有効に活用する。

総合的な品質向上対策として、アミノ酸等の友果（500倍）、ケルパック66（500～1,000倍）、オルガミン（1,000倍）、モーニングシャイン（1,000倍）等を利用する。

特に曇天降雨が続き、糖度が低い・根が傷んでいる場合は積極的に活用する。

4. 果実が重くなり樹に負担がかかっている。風で枝折れしないように支柱等を行う。

枝が折れた所は、きれいに切り取りトップジンMペーストの塗布を行う。日当たりが良すぎると傷口が治りにくいので、ワラ等で覆う。

◆収穫中品種の腐敗病防止対策について

果実腐敗病の被害果は、発見次第胞子が飛ばないように除去する。

被害果が樹上にあると降雨で被害が拡大するので、早急に除去し土中等に埋めて処理をする。

◆極晩生種の管理について

基本管理や薬剤防除は、前回情報までの内容をご確認下さい。

1. 除袋時期の目安（あくまで目安です。）

| 品 種 | 時 期 |
|-------|---------|
| 白根白桃 | 8月中～中下旬 |
| さくら白桃 | 8月中下～下旬 |

※目安の指標:着色が容易な品種ほど、除袋は遅め。困難な品種ほど早めとなる。

※生育がバラついている。また小玉傾向で地色の抜けが遅い。

※今後の気象条件・自園の状況・地色を確認しながら行う。

【もも薬剤防除】※もものみ。

◆9月上中旬以降から収穫するもも極晩生種

(西王母・黄ららのきわみ等)の(特)薬剤散布について

1. 散布時期:8月17日(土)～21日(水) 《実際散布日記入 月 日》
2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

※収穫中・収穫近くのもも・ネクタリンに飛散しないよう十分注意する。

| 農薬名 | 使用量 | 対象病害虫 | 収穫前 |
|--------------|-------|----------------|-----|
| 展 着 剤 | 10ml | — | — |
| ダコニール1000 | 100ml | 灰星病 | 前日 |
| Ⓜダイアジノン水和剤34 | 100g | シンクイムシ類・ハマキムシ類 | 前日 |

3. 散 布 量:10a当り⇒ 500ℓ 以上

4. 留意事項

- ①今回の防除は、極晩生種の定期散布として行い、収穫中のもも・ネクタリンに飛散しないよう十分注意する。
- ②ダコニール1000は、除袋直後に飛散すると薬害を発生する場合がありますので、十分注意する。
- ③ダコニール1000に代えて、Ⓜカナメフロアブル 4,000 倍(水 100ℓ に 25ml・収穫前日まで)を使用してもよい。
- ④せん孔細菌病の葉への感染が多い園は、スターナ水和剤 1,000 倍(水 100ℓ 当り 100g・収穫7日前まで)を加用散布する。